

# 令和8年度 学校経営方針

R8. 4. 1

世田谷区立芦花小学校長 諸角 哲男

## キャリア・未来デザイン教育

- 特別活動の充実
- 「芦花っ子タイム」（異学年交流）
- 「せたがや探究的な学び」
  - ※「探究プロセス」と「共感・協働」
- 一人1台タブレット等 ICT 機器の活用
- 教職員の連携
- 読書活動の推進
- 「キャリア・パスポート」の活用
- 「芦花中学校」との連携
  - ※「魅力ある学び舎」の研究
- 「八幡山保育園」との連携
  - ※「架け橋期のカリキュラム」の研究

## 共に学び・共に育つ教育

- 豊かな人間関係を築く言語環境
  - ※正しく美しい日本語
- 異文化の理解と尊重
- 人権教育の推進
- 道徳教育の充実
- いじめへの組織的な対応
  - ※いじめをしない させない、許さない
- 不登校への適切な対応
- 協働的な「学び合い」活動
- 支持的風土のある学級経営
- 基礎学力の向上
  - ※小学校放課後学習支援事業(寺子屋)
- インクルーシブ教育の定着
- ひかり学級、すまいるルームとの連携

「地域とともに豊かな人間関係を築き、  
一人一人の子どもが自己実現できる学校」を目指して  
～感謝と人に役立つことに喜びを感じる子どもを育てる～

## 地域とともにある学校づくり

- 「学校運営協議会」の充実
- 「社会に開かれた教育課程」の実現
- 保護者・地域の方の参加型授業
- 地域行事への積極的参加
- 保護者との連携
  - ※挨拶、危機管理意識、基本的な生活習慣
- 地域人材の有効活用
  - ※「学校支援コーディネーター」との連携
- 学びを支える学習材の活用
  - ※地域の人材、施設等の活用
- 豊かな感性、情操の醸成
  - ※JAと連携した栽培活動
  - ※地域の自然環境を活用した活動
- ゲストティーチャーの積極的活用
  - ※弁護士による「いじめ防止授業」
  - ※「リアル職業調べ」

## 働き方改革と効果的な教育

- 「チーム芦花小」、組織的な指導
- 校内研究（国語科）の充実
- 学校行事の充実と改善
- 「芦花っ子の約束」に基づく指導
- 教室環境の整備
- 「食育」の推進
- 「体力向上」の取組の充実
- 教職員の人権意識の向上
- サービス事故防止の徹底
- 研修等に基づく指導技術の向上
- 「若葉の会」による人材育成
- ICT機器を活用した業務改善
- 「すぐーる」の有効活用

# 学校経営方針

世田谷区立芦花小学校  
校長 諸角 哲男

「地域とともに豊かな人間関係を築き、  
一人一人の子どもが自己実現できる学校」を目指して  
～感謝と人に役立つことに喜びを感じる子どもを育てる～

## 1. 「キャリア・未来デザイン教育」の推進

異学年交流や学び舎、地域との交流等を通して、「人と関わる力」等の非認知能力を育てるとともに、自己有用感と自らのキャリア形成に向けて主体的に活動できる子どもを育てる。

□特別活動を中心に自身の役割を果たす活動を通して、学校生活を自分たちで「創る」等の自主的、実践的な活動を通して、豊かな人間関係を築く。

□芦花っ子タイム(異学年交流)等の活動で、「人とうまく関わる力」等の非認知能力を高めながら、人の役に立つ喜びや自信、自己有用感、年長者に対するあこがれを育てる。

□「せたがや探究的な学び」の「探究プロセス」「共感・協働」を各教科等において大切にし、探究的な授業の充実・改善を図る。

□一人1台タブレット等の ICT 機器を学校及び家庭での活用を充実し、ロイロノートやキュビナ、デジタル教科書等を有効に使い、子どもの学ぶ意欲の向上、基礎基本の定着を図る。

※タブレットを学びの道具として子ども一人ひとりが有効活用できるよう、使用についての教職員の共通理解を図るとともに、家庭との連携を密に行う。

□子どもたちの一人一人の学習や生活状況の把握に努め、指導に生かすため、授業を互いに見合う、授業に入って一緒に指導する等、担任同士、担任と専科や講師等との連携を密にする。

□読書活動を探究的な学びの素地づくりに位置付け、TRC と連携した学校図書館の活用、ブックトーク等の専門的な指導、保護者ボランティアによる読み聞かせ、読書週間、家庭との連携等を通し読書活動を推進する。

□「キャリア・パスポート」を活用し、一人一人が将来への展望を図れるよう、趣旨や取り組みを家庭に周知する等、家庭との連携を進める。

□芦花の学び舎の芦花中学校と連携校である八幡山小学校、近隣幼稚園・保育園と連携協力し、切れ目なく円滑に学びの連続性を大切にしていく。

□芦花中学校とともに「魅力ある学び舎」に関する研究をすすめる。

□「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」を基に、幼保小の円滑な接続に向けた交流の充実を図る。

□世田谷区立八幡山保育園と「架け橋期（年長～小1）」の教育活動について、研究を進める。

## 2. 「多様な個性を尊重し合い、共に学び、共に育つ教育」の推進

学校・学年・学級において支持的風土を育み、子どもに関わる全ての教職員が情報を共有し、子ども一人一人の個性や能力、発達特性等の多様性を理解し、多角的な子ども理解に努めながら、いじめの防止、不登校子どもや障害等の特別な配慮を必要とする子どもへの指導を充実する。

- 豊かな人間関係を築くうえでの基礎となる言語環境を整える。  
教師として、子ども、保護者、地域の方々からの信頼を得られるよう、「正しく美しい日本語」を使い、人権に配慮した言動を取る。他の教員の不適切な言動等を見聞きした時には、互いに注意し、改善を図れるよう組織的に対応する。
- 正しく美しい日本語を基に、外国語について興味・関心をもち、外国語専科、ALTによる指導を充実し、英語を用いてのコミュニケーションを取ろうとする態度と異文化に対する理解を育む。
- 学校全体、保護者・地域と連携しながら「挨拶」に取り組む。
- 「自分も大切、他の人も大切」のスローガンのもと人権教育を推進し、多様性を理解し尊重する心、偏見や差別をしない態度を育成する。
- 「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の充実を図り、自尊感情や規範意識、道徳的価値への自覚を高め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- 子ども同士、子どもと教職員の豊かな人間関係を築き、不登校の未然防止、丁寧な対応等を行うとともに、「いじめはしない させない 許さない」という強い思いをもち、「芦花小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- いじめを認知した際には、いじめ対策委員会での検討を迅速に行い、教職員が一丸となって組織として解決にあたる。
- 「不登校ガイドライン」等を十分に理解し、不登校状況にある子どもたちへの関わりを丁寧に行う。
- 子どもの協働的な「学び合い」を通して「子どもが語る授業」を充実し、「自分で考え、伝えられる子」を育成する。
- Q-U調査等を有効活用した確かな子ども理解に基づいた支持的風土のある学級経営の充実を図り、学級や学年・学校への所属意識を高める。
- 「小学校放課後学習支援事業（寺子屋）」を1・2年生で実施し、基礎学力の向上を図る。
- 子どもに関わる全ての教職員の情報を共有し、子どもの個性や発達特性等の多様性を理解したうえで、子ども一人一人に応じた指導を充実できるよう「インクルーシブ教育」を推進する。
- 特別支援学級（ひかり学級）設置校として、ひかり学級の教育の充実を図るとともに、通常の学級との交流を積極的にすすめることで、多様性を互いに認め合い個性を生かし合って共に学ぶ機会を充実する。
- 特別支援教室（すまいるルーム）拠点校として、すまいるルームの巡回指導教員と各担任が連携して、すまいるルームを使用している子どもが、自己の課題を乗り越える方法を身に身に付け、所属学級での生活を充実できるようにする。
- 巡回校である八幡山小学校との連携を深め、指導の充実を図る。
- 東京都立久我山青光学園をはじめとする特別支援学校との復籍事業を推進し、子どもの実態に応じた交流を実施していく。
- 巡回指導員、特別支援教室専門員、都・区SC、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタント、学校生活サポーター等との連携を十分に図りながら、全ての子どもに対して特別支援教育に基づいた指導の充実し、自尊感情・自己肯定感の育成を図る。

### 3. 「地域とともに子どもを育て、地域が学校教育に参画する学校づくり」の推進

学校運営協議会の取組の充実を図り、地域の教育力を積極的に活用する。保護者や地域の人材専門家等のゲストティーチャーを積極的に招聘する。

- 学校と保護者・地域との連携の中心には、常に子どもがいることを念頭に置き、情報の発信と共有とそれぞれの役割を明確にし、協働と連携を通して「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- 参観から参加へ、保護者・地域の方の参加型授業を積極的に取り入れていく。
- 子どもの体験を大切にし、積極的な地域行事への参加を促す。
- 保護者と連携して挨拶や、交通事故や事件から身を守る危機管理意識、基本的生活習慣等の育成を図る。
- 学校支援コーディネーターと連携し、地域人材等を有効活用した体験的な学習を推進する。
- J Aと連携した栽培活動や稲の栽培、地域の畑での栽培活動や地域の公園での教育活動等を通して、自然や土と触れ合う機会を充実し、豊かな感性や情操を育む。
- いじめ防止に向けて、「弁護士によるいじめ防止授業」を実施する。

### 4. 「学校における働き方改革と子どもにとってより効果的な教育活動」の推進

学校全体で組織的なカリキュラム・マネジメントに取り組むことで創造的な余白を生み出し、教師が心身ともに健康で子どもと向き合う時間を確保する。

- 教員としての日々の研鑽を怠らず常に「子どものために」の指定を忘れず、「すべての教職員ですべての子どもを育てていく」を合言葉に「チーム芦花小」として組織的に指導していく。
- これまでの特別活動の校内研究を基盤に、令和7年度から取り組んでいる国語科の校内研究をさらに充実し、子ども自らが問いをもち、主体的、協働的に調べ、学び合いを通して、考えを広げたり深めたりできる授業の充実を図るとともに、自己の授業力の向上、授業改善に一層努める。
- 各種学校行事の充実を図るとともに、教職員、保護者、子どもの評価等、総合的に検討を行いながら見直しを行う。
- 「はい。」・立つ・「～です。」等の学習規律の確立、「声のものさし」・聞き方「あいいうえお」の指導を徹底するとともに、「芦花っ子の約束」を基準として各クラスが同じスタンスで生活指導・学習指導を行う。
- 子どもが安心して学び・生活できる場としての教室掲示の工夫等、教室環境の整備に努める。
- 地産地消等の取組を進めながら「食育」を推進し、自他の健康に対する意識の向上を図る。
- 体育の授業の充実を図るとともに「短縄月間」や「持久走月間」の取組を通して一人一人の体力向上を図る。
- 教職員一人一人が高いモラルとサービスの厳正についての意識をしっかりとつとつとに、人権意識を磨きながら、子どもや保護者との温かい人間関係を築く
- サービス事故防止月間（7月・12月）だけでなく、日常的なサービス防止の取組を行い、「サービス事故は絶対に起こさない」という意識を全教職員で共有する。
- 世小研（世田谷区小学校教育研究会）をはじめ、都や全国の研究会への参加や情報収集等を通して指導技術の向上を図る。
- 「若葉の会」のOJTを通して若手教員の指導力の向上を図る。
- スクールサポートスタッフ（SSS）、ICT支援員等の人材の活用、タブレット等のICT機器、複合機の活用等を通して業務改善に取り組む。
- 保護者への連絡等に「すぐーる」を効果的に活用し、紙ベースでの配布物の削減に努める。